



# CSやってみよう!

裾野市教育委員会  
学校教育課  
令和3年1月5日

## 令和3年度より、先行導入校でコミュニティ・スクールを始めます!

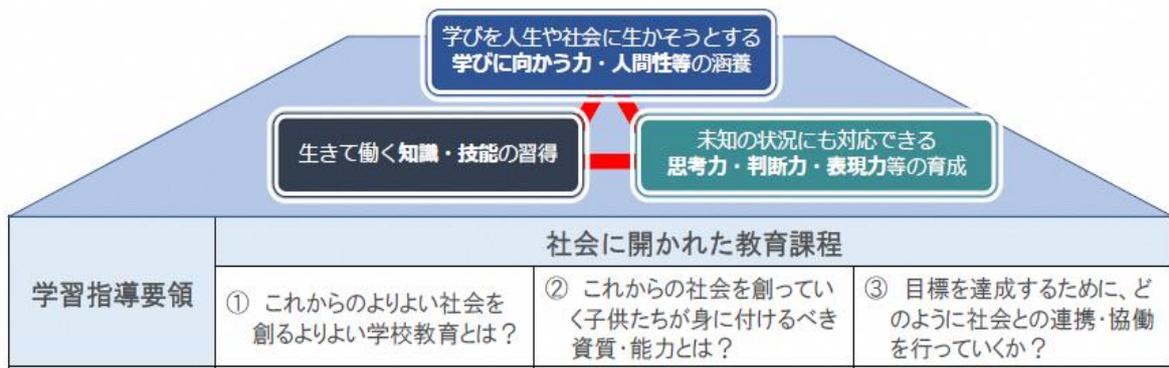
来年度は、市内の小・中学校のうち3校を先行導入校として指定し、法に基づいた「学校運営協議会」を設置したコミュニティ・スクールを導入します。12月に、校長会を始めとした諸会議で、先行導入校決定に向けた手順、具体的な取組、年間スケジュール等について説明を行いました。来年度は、先行導入校での実践をもとに準備委員会の委員や各校のCS担当者で検討を行い、課題解決に向けた協議を行っていく予定です。そして、令和4年度には市内全校にコミュニティ・スクールを導入していきます。

## なぜ今、C・Sなのか…? ～社会に開かれた教育課程の実現～

今年度より新学習指導要領が小学校で全面实施(中学校:令和3年度～)されました。「主体的・対話的で深い学び」「資質・能力の三つの柱」「カリキュラム・マネジメント」など、新しい学習指導要領における重要な事項の全ての基盤となる考え方が『**社会に開かれた教育課程**』です。



### 「社会に開かれた教育課程」の実現と「地域と学校の連携・協働」



これからの学校は、変化の激しい社会の動向に目を向け、教育課程を工夫し、子供たちの将来を見据えた教育活動を展開する必要があります。そのために、保護者や地域住民と情報や課題を共有し、学校と地域が共通の目標やビジョンを持つことが重要となります。したがって、共通の目標の実現に向けて学校と地域がともに主体者として協働していく仕組みを構築するために、各学校の教育課程を編成する上で、「社会に開かれた教育課程」の視点を取り入れることが求められます。

### ☆☆各学校における来年度の教育課程を編成する際のポイント☆☆

- 地域の人材・教育力の活用、地域との協働の場面を検討し、カリキュラムの中に位置付ける。
- これまでの地域学校協働本部の活動やスクールコーディネーターとの連携を再構築する。
- 学校評価、学校評議員会等で、保護者や地域の声を聴き、反映する。

## 第2回コミュニティ・スクール準備委員会を開催しました。

1月12日に第2回CS準備委員会を開催しました。今回は、「学校運営協議会規則案の検討」や「地域と学校の連携の具体例」「先行導入校での取組」など、実務的な課題について協議しました。CSを円滑に導入するためには、まずは地域や学校の現状を捉えてできることから始めていくことや、教職員だけでなく保護者や地域住民の意識も少しずつ変えていくことが必要であるという意見が出されました。



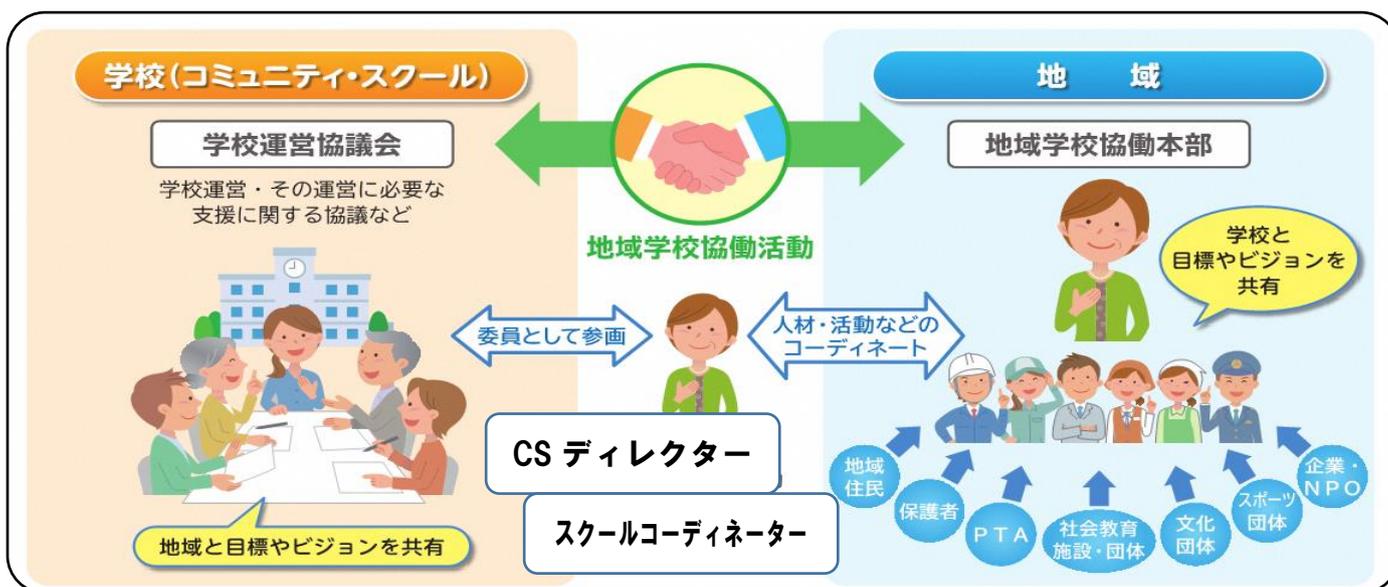
### 学校運営協議会規則案について

- ・教職員の任用に関しては、個人を特定した意見が出ないように、規則で定めた方がよい。
- ・学校運営の基本方針の承認は、学校評議員会やPTA 総会での承認とは重みが違うのではないか。
- ・委員の任期は1～2年間で妥当。うまく引き継ぐことで「地域の学校」として維持できる。

### 地域と学校の連携について

- ・コロナ対策のトイレ清掃（人・物品）を、地域の協力を得て実施している学校がすでにある。
- ・学校によって特色や差がある。学校間やコーディネーター同士で情報交換していくとよい。
- ・地域と学校の役割分担、地域の教育力・人材を踏まえて、教育課程を編成していく必要がある。

## 学校運営協議会 と 地域学校協働活動 の一体的推進を！



学校運営協議会を設置しただけでは、CSが効果的に機能するとは言えません。学校運営協議会で協議されたことを、地域学校協働本部（これまでの学校支援地域本部）が具体的な活動として実行することで、子供の学びや体験活動、学校を支援する取組が充実していきます。言わば、両者は「ブレーン」と「実行部隊」の関係にあると言えます。



【参考資料】 Web ページ「学校と地域でつくる学びの未来」 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/>  
書籍「奇跡の学校～コミュニティ・スクールの可能性」 著：小西哲也・中村正則 風間書房

第3回準備委員会：令和3年1月20日（水）13:50～16:30 裾野市役所 402 会議室  
【主な内容】 風岡治 氏（文科省 CS マスター）による講演、令和3年度先行導入校について